



# 母校の耐震改修終わる 音楽ホールを新設



耐震改修工事が完了した西高校舎



音楽ホールの落成を記念して開かれた演奏会  
(河崎妙子さん撮影)

鳥取西高等学校校整備事業が終了し、4月1日より、改修された校舎において生徒、職員が新たな学校生活に入りまし

改修及び耐震改修が必要となり、平成24年に設計、26年から工事着手、29年3月までに管理棟、第一・二校舎、体育館などを耐震改修。芸術棟(音楽ホール)、トレーニング場、エレベーター棟、第三校舎への渡り廊下が新築されました。

大部分が国指定史跡の区域にあるため、工事では次のこ

とが留意されました。まず「史跡との共存を図る」です。遺構面への影響がないように、工事用道路を設け、芸術棟など新設する建築物については遺構面の上部に保護層をかぶせました。既存の建物の耐震補強工事においても遺構への影響がないように配慮されました。二つ目は「景観に配慮す

る」です。継続使用する施設は、久松山や鳥取史跡の景観に調和した色彩や和風の外装に改修されました。新設された芸術棟は、木造低層(平屋)の和風建築とし、鳥取市で復元整備される大手登城路の史跡景観との調和を図りました。

史跡として歴史的環境をさらに顕在化させるため、学校敷地内4か所に新たに文化財解説板を設置。今後、部室棟や駐輪場を移設し、三の丸下の石垣を顕在化する計画です。加えて老朽化した施設整備や内装等の改修、バリアフリー化など、教育環境の改善を図るとともに、LED照明等の機器の効率化や太陽光発電等の自然エネルギーの活用、断熱・遮光等によって、CO2排出量の削減にも努めました。

鳥取市で復元整備される大手登城路の史跡景観との調和を図りました。

今年度は、夜空を舞台に人工的に流れ星を作り出すというプロジェクトに取り組んでいる宇宙ベンチャー「ALE」社長の岡島礼奈(おかじま・れな)さんに講演をお願いしました。タイトルは「人工流れ星の実現に向けて」世界初の宇宙エンターテインメント。岡島さんは平成9年鳥取西高を卒業後、東京大学で天文学を学び博士号を取得。大学時代に流星群を見たことが人工流れ星のビジネス化に乗り出すきっかけになったそうです。

夢の実現のため平成23年にALEを起業。大学や研究所の協力を得て、来年中にも流れ星となる小さな金属の玉を積んだ超小型衛星を打ち上げ、2年後に広島県の約五百キロ上空から放出し、流れ星を発生させる計画です。民間では世界初の試みで、野外イベントなどで利用することを目指しています。

発行 鳥城会事務局  
03(6267)4550

制作 (有) august design  
03(4405)6258



岡島礼奈さん

★今年度総会は10月28日  
★ゲストは星の創り人★

田辺宏(昭和56年卒)

会員寄稿①

長い人生の、  
たった3年の貴重な時間



三角幸子さん

NHKの朝ドラ「ひよっこ」の主人公、みね子は私より1学年下です。東京



高3のクラスの体育祭の仮装。テーマは「三国志演義」

上写真の3年生の体育祭でクラス対抗の仮装行列の準備をしたもの、よくこんな凝ったのだと驚きま

教室だけでなく、部活やこんな共同作業を通じていつそ

三角幸子 (元雑誌編集者 39年卒)

会員寄稿②

この指とまれ



中村輝実さん

私は鳥取西高の20期で岩美町浦富の出身です。現在



中村さんの古里・岩美町の東浜駅に停車中の「トワイライトエクスプレス瑞風」(読売新聞社提供)

庭師をしています。こちらでも鳥取西高

残り火のくすぶっている頃卒業して、サラリーマン生活を2

年齢を重ねれば子供に帰ると言います。近所の子

いたあの頃。貧乏人も分限者も関係な

中村輝実(株式会社「庭吉」代表取締役社長 44年卒)

特別寄稿

よみがえれ 赤瓦



入江明代さん

「赤瓦 あつ という間に 青

通っているジ ムに張り出して あるこの俳句 倉吉の今を言い 表すに、ピッタリ の十七文字です。

平成28年10月21日14時7分。東京でもグラツと揺れたのがわかった(我が息子談)という鳥取県中部地震では、倉吉の中心街にある観光地「白壁土蔵群」(通称「赤瓦」)付近も大きな被害を受けました。地震直後、中部の市町村から素早い対応でブルーシー



家々の屋根にブルーシートがかけられた倉吉市の住宅街 (読売新聞社提供)

トが無料配布され、ずれたり落ちたりした屋根等の応急処置に使われました。この地震で、屋根瓦の被害を受けた家かなりあり、追い打ちをかけるように32年ぶりの大雪だったこの冬を越すのはとても大変でした。

12月。北風が吹き、大雪注意報が発令されている中、友人から電話がかかってきました。屋根にかけているブルーシートが飛びそうで、電線に引っかかるのではないかと心配で。何とかしてくれ業者を知らないか。という切羽詰まった声での電話でした。何の助けもできなかったのですが、業者さんとて、大嵐の中危ない屋根の上の仕事は無理だろうし、ふわふわと所在なく舞うブルーシートを見守る友人も気が重くはなからうと、手助けできないもどかしさに悔しい思いをした冬でした。

地震から10か月が経とうとしていますが、「青瓦」はまだまだ消えそうにありません。あちこちで屋根の作業をしている業者さんは見かけますがなかなかです。もつとかかりそうなのがお墓です。ブルーシートがかかったままのお墓もたくさんあって、今頼んでも3年先になると言われているようです。

時間がかかりそうですが、それでも着実に復興へと向かっています。「赤瓦」がよみがえるよう、鳥取に帰省の折には、中部にも足を運んでいただきますようお願いいたします。

入江明代(湯梨浜町立泊小学校教頭・倉吉市在住 55年卒)

会員寄稿③

下宿から通った西高時代



原田哲哉さん

「早くごはん食べんと、学校に遅れるでー」

「忘れ物ないかあ」 北中学校近くには

あった「山口下宿」での1日は、母親代わりの山口正枝さんの大きな声で始まった。私を含め、6、7人の下宿生は、山口さんの叱咤激励のおかげで無事に通学できたようなものだ。私は2年生の夏、父親が九州に転勤したのに伴い、卒業までの約1年半を下宿

して西高に通った。転校も検討したが、年度途中だったことなどから、下宿通学を選択した。陸上部に所属し、仲間とインターハイ出場を目指していたことも、西高に残りたいという気持ちの後押しした。しかし、16歳からの下宿生活は楽ではなかった。家族と離れて暮らすのは寂しいし、掃除、洗濯などをこなしながら、勉強や部活動に集中するのは難しい。

「山口下宿」

は、お昼の弁当も含め、3食付きで下宿代は月3万5千円程度だった。大半は西高生だったが、高校進学を目指して鶏鳴塾に通うために他府県から来た人もいた。以前は、兵庫、京都、北都から西高に入学するたために、この下宿に住んだ人もいたと聞く。

規則は厳しかった。友人らを下宿に入

れることやテレビ所有は禁止。門限は午後8時で、それ以降は下宿生も互いの部屋を行き来してはいけない。とはいえず、寂しいので、夜遅くまでだれの部屋に集まってトランプをするなど、結構な破りの生活をしてきた。先輩方の受験対策や価値観を聞くことができたのは下宿ならではのメリットだった。私は昭和54年、滋賀県でのインターハイに4×400Mリレーで出場することができたが、受験はうまくいかず、卒業後、親元の福岡市で浪人し、56年、東京の大学に進学した。今になって思うのは、やはり西高のブランド力の高さだ。全国にはあまた高校があるが、「鳥取西高」というと、大体の人は、文武両道の名門校であることを知っている。だからこそ、「山口下宿」も存在したのだと思う。ここでの生活は、今も私の記憶の宝物だ。

原田哲哉(札幌テレビ放送取締役 55年卒)



原田さんが下宿していた山口さん宅と大家の山口正枝さん

# 報告 池田家当主 教育を語る 総会 当番幹事補佐制を承認

鳥城会総会が、平成28年10月22日(土)にアルカディア市ヶ谷にて開催されました。昭和30年(平成12年)の卒業生及び来賓総勢101人が参加する盛会となりました。

総会では、吉田政雄会長(42年卒)より、当番幹事学年は55歳学年を中心に54歳と56歳学年が補佐する新鳥城会当番体制案が提案され、満場一致で承認されました。

特別講演には、鳥城会特別栄誉会員で鳥取池田家16代当主の池田百合子氏をお招きし、「何処へ出しても恥ずかしくない若者の育成」というタイトルでお話ししていただきました。

校長と勢川洋之PTA会長・同窓会副会長より祝辞をいただいたあと、参加者最年長の山田憲典氏(30年卒)の乾杯の御発声で懇親会がスタートしました。時の経つのも忘れ、差し入れの鳥取の美酒を味わいながら、旧交を深め大いに盛り上がりました。最後に、32期代表幹事澤口公彦氏(56年卒)に鳥城会旗を引き継ぎ、元応援団長神谷昭光氏(35年卒)の指揮のもと参加者全員で校歌を高らかに歌いエール送って閉幕となりました。



講演する池田百合子さん



懇親会を楽しむ会員のみなさん

## 県人ゆかりの地を探訪 史跡巡りを再開

第13回「史跡巡り」は昨年9月10日(土)に実施。総勢15名が中野区上高田と新宿区上落合を巡った。先ず早稲田通りに面した3つの寺を訪れた。正見寺には、浮世絵師・鈴木春信描く谷中水茶屋の看板娘・笠森お仙が眠る。哲学者・三木清の墓も。近くの源通寺には黙阿弥が眠り、隣接の高徳寺には静謐な雰囲気の中に新井白石と妻の墓が仲良く並ぶ。落合斎場に近い願正寺には、日米修好通商条約批准書交換で有名な新見豊前守正興の墓が。近くの上落合三輪には岩美出身の特異な作



中井四の坂・林芙美子邸の庭にて

家・尾崎翠が、上高田の宝泉寺には同じく岩美出身で柳田国男の高弟・橋浦泰雄が下宿した。翠の友人・林芙美子の住まいは中井「四の坂」に今もある。上高田の功運寺には吉良上野介とともに芙美子が眠る。童謡「たきび」のうたは上高田の旧家・鈴木伸幸さん宅が発祥地。私達一行は中野哲学堂を見学後、一路、懇親会場である中野駅前「百人衆」へ。新鮮な刺身を肴に新潟の地酒に深く深く酔いしれた。

史跡巡り担当 篠田伸夫(37年卒)

### 編集後記

新しくなった母校を見たい。次の帰省で必ず立ち寄ります。マドンナが住む倉吉にも…。(芝田)

行間から溢れる西高愛・鳥取愛が胸にグツとききます。豆腐ちくわを肴に飲みたくなりました。(加納)

部活で久松山の頂上まで走ったことを思い出しました。城跡に建つ校舎、いいです。(田辺)

会報を読まれたあなたに次号へのご寄稿をお願いするかもしれません。笑顔で引き受けてください。(編集担当一同)